授業科目の概要

（2025年度実施内容。2026年度には一部変更の可能性があります）

共通科目　基幹科目

リハビリテーション理論特論
担当：矢野 秀典／安心院 朗子／會田 玉美／春原 則子

リハビリテーションの理論的体系の歴史的な変遷と構造、特徴について学ぶ。国際生活機能分類（ICF）の考え方に基づき、リハビリテーションの実践を分析し、そのあり方を考察する力を養うとともに、自己の研究目標について理解を深める。

リハビリテーション研究法特論
担当：矢野 秀典／會田 玉美／佐川 佳南枝

先行研究のレビュー、研究目的・仮説の明確化、研究計画の作成、方法の選択、結果分析の手法、研究論文のまとめ方、研究倫理の遵守など、リハビリテーションの研究を進める上で基本となる事項を学ぶとともに、調査研究、臨床研究、質的研究などについて、具体的研究例を通して理解を深める。

リハビリテーション包括的支援特論
担当：會田 玉美／森 つくり／新井 武志

すべての人が可能な限り住み慣れた地域で自分らしく生活するために必要な支援・サービスのあり方や、医療・福祉、および行政・住民の協働などについて、リハビリテーション専門職の視点から学ぶ。

リハビリテーション統計学　担当：石橋 裕
リハビリテーション研究で用いられる基本的な統計分析手法を理解する。さらに、医療、保健、福祉分野の論文などから、研究に使われている統計分析法を学び、応用する力を養う。

リハビリテーション医療管理特論　担当：佐藤 広之
リハビリテーション領域の組織およびチームアプローチの特性について理解し、質の高い医療を提供するためにどのような体制が必要であるかを、危機管理やヒューマンエラーに関する知識も深めながら学習する。

共通科目　展開科目

リハビリテーション医学特論
担当：佐藤 広之／仲本 なつ恵／角田 玲子／會田 玉美

整形外科疾患、脳血管疾患、耳鼻咽喉科疾患、内科・小児科疾患などのリハビリテーション医学の対象疾患に関する診療技術や研究の進歩について理解する。社会情勢や患者の生活の変化などをふまえ、柔軟な対応のあり方についても学ぶ。

リハビリテーション心理学特論　担当：時田 みどり
リハビリテーションの諸過程において、対象者の心理的側面を適切に理解しておくことが重要となる。本科目では、知覚、注意、記憶、学習、思考、情動などの、基礎的な心の働きについて理解を深め、様々な動機づけ理論や意思決定過程に関する知見を紹介する。

リハビリテーション実践モデル特論　担当：小林 幸治
障がいや老いと共に生き、自己効力感の低下や自己同一性の問題を抱える場合、心理社会的アプローチが重要となる。本講義では人間作業モデルを中心に、対象者理解、対象者との協働アプローチについて理解を深める。

リハビリテーション工学特論　担当：工藤 裕仁／花房 謙一
各種補装具・福祉関連機器・環境制御装置などの開発・導入に欠かせない、運動学、運動力学、生体力学、材料工学などリハビリテーション工学の基礎について学ぶ。その上で、障がい者の生活の質（QOL）向上に向けた実証的な研究を展開する。

リハビリテーション教育方法特論　担当：花房 謙一／岡崎 史子
リハビリテーション専門職の養成施設や臨床実習施設における教育方法について学ぶ。学生が自ら学ぶための学修方略、正統的周辺参加と認知的徒弟制といったクリニカル・クラークシップの理論、学習評価、職業教育を療法士と医師の立場から講義・演習を行い、幅広い知識を修得する。

特別支援教育特論　担当：藤本 裕人
「特別支援教育」の教育制度と指導法の基本的な考え方を解説します。また、「対象となる子供」（就学システム）や学校教育の教育的配慮をふまえて、医療・福祉等と教育との適切な連携の在り方を考えます。

教育原理　担当：峯村 恒平
日本の教育における歴史・制度や指導法について、社会学・心理学・教育学的な視点から学び、「教育」の意味を多角的に捉えた指導者・教育者としての資質や、相手に合わせて指導を行うための知識や技能を養う。

障害者福祉特論　担当：山﨑 順子
障害者基本法の精神に則り、その中軸となる障がい児・障がい者福祉の施策・制度・サービス体系の新しい在り方を学ぶ。そして福祉と関連する教育などとの連携もふまえて、現代障がい者福祉論の課題と可能性を探る。

精神保健福祉特論　担当：古屋 龍太
日本の精神保健医療福祉の特異な歴史と現状を理解し、現行法制度の下での支援の実際や課題となっている事柄を通して、精神疾患を有するひととかかわる支援者の姿勢等を検討する。

専門科目　理学療法リハビリテーション分野

理学療法リハビリテーション特論Ⅰ
担当：工藤 裕仁／安心院 朗子

生活習慣病の予防や高齢者の介護予防など、予防的リハビリテーションを実践するために必要な情報や技術を学ぶ。高齢化の進行に伴う社会保障費の増大が社会問題化している現代において、理学療法士に期待される役割について理解する。

理学療法リハビリテーション特論Ⅱ　担当：矢野 秀典／万行 里佳
質の高い理学療法を提供するために必要な基礎知識や技術を身につける。また、少子高齢化の進行、疾病構造の変化、医療技術の進歩など理学療法を取り巻く環境、理学療法の今日的課題や最新の研究事例についても知識を深める。

理学療法リハビリテーション演習Ⅰ　担当：辻 和弘／兵頭 甲子太郎
理学療法リハビリテーション特論Ⅰの内容を受け、予防活動を中心とした理学療法研究を体系化する。過去の研究成果や実践をリサーチし、今後の展開について考察するとともに、修士論文の作成に向け研究のレビューや研究法を学ぶ。

理学療法リハビリテーション演習Ⅱ　担当：小山内 正博／小川 大輔
理学療法リハビリテーション特論Ⅱの内容を受け、最新のトピックや研究事例などを通じて、治療としての理学療法が抱える課題や問題点を解決する力を養う。また、演習Ⅰと同様に研究のレビューや研究法を学び、修士論文作成の準備を進める。

専門科目　作業療法リハビリテーション分野

作業療法リハビリテーション特論Ⅰ
担当：小林 幸治／野村 健太

本来的な作業療法の可能性を追究するには、医学・社会・福祉・教育・職業と幅広い視点を持つことが求められる。本講義では作業療法領域における最新のテーマを学び、今後の社会的ニーズに応えるための知識と専門性を修得する。

作業療法リハビリテーション特論Ⅱ　担当：會田 玉美／館岡 周平
人は多面的な存在であり、その多面性が相互に影響する。本講義では人々の生活の質（QOL）を向上させる作業療法の研究法を理解する。

作業療法リハビリテーション演習Ⅰ
担当：小林 幸治／野村 健太

作業療法学領域の修士論文作成の際によく用いられる調査・研究方法を研究事例と共に紹介する。受講生が自らの研究疑問を明確にし、それを研究デザインに繋げるための準備を行う。

作業療法リハビリテーション演習Ⅱ　担当：會田 玉美／館岡 周平
保健・医療・福祉・教育・労働・行政・企業・司法など幅広いフィールドにおける作業療法の研究を「つながり」の視点から分析する。また社会的な包括支援に貢献するためのさまざまな作業療法の研究について学ぶ。

専門科目　言語聴覚療法リハビリテーション分野

言語聴覚療法リハビリテーション特論Ⅰ
担当：小林 智子／森 つくり／今富 摂子／橋本 幸成

聴覚リハビリテーション領域、言語発達領域、発声発語領域をめぐるこれまでの状況を俯瞰し、新たな研究成果もふまえて、言語聴覚療法だけでなくリハビリテーションや療育の視点から議論を深める。

言語聴覚療法リハビリテーション特論Ⅱ
担当：森 つくり／小林 智子／今富 摂子

失語症を中心とする高次脳機能障害、言語発達障害、聴覚障害をめぐるこれまでの状況を俯瞰し、新たな研究成果もふまえて、言語聴覚療法だけでなくリハビリテーションや療育の視点から議論を深める。

言語聴覚療法リハビリテーション演習Ⅰ
担当：今富 摂子／後藤 多可志／橋本 幸成

言語発達障害、発声発語障害、失語症を中心とする高次脳機能障害の各領域における言語聴覚療法の今日的な課題や問題点について最新の知見をふまえ、議論を深める。

言語聴覚療法リハビリテーション演習Ⅱ
担当：後藤 多可志／今富 摂子

失語症を中心とする高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語障害をめぐる諸問題について考え、新たな研究成果を取り入れて、対象児者のコミュニケーションや生活を援助する方法を多面的に探る。

専門科目　特別研究

特別研究（理学療法リハビリテーション分野）
理学療法分野における研究論文を作成するために必要な基本的知識を実践的に修得する。国内外の文献検索と講読を通じて研究計画を明確化し、データの収集・分析、結果の解釈と考察を行い、修士論文の完成を目指す。

特別研究（作業療法リハビリテーション分野）
国内外の文献検索と講読、研究課題に基づいた研究計画書の作成、データの収集と分析、結果の考察というプロセスを、段階を踏みながら修得する。その総括として、作業療法リハビリテーション分野に関する修士論文の完成を目指す。

特別研究（言語聴覚療法リハビリテーション分野）
言語聴覚療法の対象となる幅広い領域における臨床活動を見つめ、社会情勢などさまざまな要因により発生する問題点から独自の研究テーマを選択する。資料やデータの収集・分析、結果の解釈・考察を行い、修士論文の完成を目指す。

カリキュラム（修了要件：30単位以上）

科目名			単位数 必修	単位数 選択	配当年次	備考
共通科目	基幹科目	リハビリテーション理論特論	2		1・2	
		リハビリテーション研究法特論	2		1・2	
		リハビリテーション包括的支援特論	2		1・2	
		リハビリテーション統計学	2		1・2	
		リハビリテーション医療管理特論	2		1・2	
	展開科目	リハビリテーション医学特論		2	1・2	6単位以上選択必修
		リハビリテーション心理学特論		1	1・2	
		リハビリテーション実践モデル特論		1	1・2	
		リハビリテーション工学特論		1	1・2	
		リハビリテーション教育方法特論		2	1・2	
		特別支援教育特論		1	1・2	
		教育原理		2	1・2	
		障害者福祉特論		2	1・2	
		精神保健福祉特論		2	1・2	
専門科目	理学療法リハビリテーション分野	理学療法リハビリテーション特論Ⅰ		2	1・2	専攻分野の8単位必修
		理学療法リハビリテーション特論Ⅱ		2	1・2	
		理学療法リハビリテーション演習Ⅰ		2	1・2	
		理学療法リハビリテーション演習Ⅱ		2	1・2	
	作業療法リハビリテーション分野	作業療法リハビリテーション特論Ⅰ		2	1・2	
		作業療法リハビリテーション特論Ⅱ		2	1・2	
		作業療法リハビリテーション演習Ⅰ		2	1・2	
		作業療法リハビリテーション演習Ⅱ		2	1・2	
	言語聴覚療法リハビリテーション分野	言語聴覚療法リハビリテーション特論Ⅰ		2	1・2	
		言語聴覚療法リハビリテーション特論Ⅱ		2	1・2	
		言語聴覚療法リハビリテーション演習Ⅰ		2	1・2	
		言語聴覚療法リハビリテーション演習Ⅱ		2	1・2	
	特別研究	特別研究（理学療法リハビリテーション分野）		6	1～2	6単位選択必修
		特別研究（作業療法リハビリテーション分野）		6	1～2	
		特別研究（言語聴覚療法リハビリテーション分野）		6	1～2	

履修スケジュール例（作業療法リハビリテーション分野1年次の場合）

		Mon	Tue	Wed	Thu	Fri		Sat
1	9:30～11:00	※平日第1～5時限は リハビリテーション学専攻の必修授業はありません。					1	
2	11:10～12:40						2	
3	13:30～15:00						3	
4	15:10～16:40						4	
5	16:50～18:20							
夜1	18:30～20:00	リハビリテーション研究法特論	リハビリテーション包括的支援特論	リハビリテーション理論特論		作業療法リハビリテーション特論Ⅰ		
			リハビリテーション教育方法特論	リハビリテーション医療管理特論		作業療法リハビリテーション特論Ⅱ		
夜2	20:10～21:40	リハビリテーション医学特論	リハビリテーション工学特論	リハビリテーション心理学特論		作業療法リハビリテーション演習Ⅰ		
			特別支援教育特論	リハビリテーション統計学		作業療法リハビリテーション演習Ⅱ		

…春学期　…秋学期